

国士舘大学、関東 1 部昇格決定！

国士舘大学がこの 1 年間の目標として定めてきた“関東 1 部昇格”。しかしその目標達成の瞬間は、ピッチ上の選手たちにとって、少しほろ苦いものとなった。

引き分け以上の結果 1 部昇格が決まる試合だった。しかし先制したのは、対戦相手の東京学芸大学。開始早々の 3 分、10 番・岸寛太にドリブル突破を許すと、そのまま鮮やかなミドルシュートを決められてしまう。第 19 節の中央大学戦でも先制され、1 点も取り返せないままに昇格決定を逃した国士舘。そんな前節の悪夢を払拭するように次々とシュートを放つが、なかなかゴールを割ることができない。しかし 15 分に、左サイドを突破した 7 番・荒木翔がゴール前にクロスを入れると、これを止めようとした東学大の 4 番・松居朋生がペナルティエリア内でハンドをしてしまい、PK を献上。国士舘は、このチャンスに、主将の 10 番・平野佑一がきっちりと決めて同点に追いついた。

後半も試合は圧倒的に国士舘が主導権を握る展開に。しかし猛攻を仕掛ける国士舘に対し、東学大も冷静に対応。10 番・平野のミドル、14 番・大石竜平、13 番・諸岡裕人のシュートも、東学大のディフェンスラインと GK の 1 番・木村真が好セーブでゴールならず。結局、両チーム追加点なく、1-1 でタイムアップ。この瞬間、国士舘の来季の関東 1 部復帰が決定した。

同日の第 1 試合として行われていた、3 位・早稲田大学と 2 位・中央大学の試合で中大が敗れたため、勝利していれば昇格だけではなく 2 部優勝も決まった試合。それだけに、試合終了後の選手たちに笑顔はなかった。主将の平野は「勝てば決まるという素直な考え方ではなく、勝たないとまずい、という焦りが積み重なってしまったのかも知れない」とこの 2 試合を振り返る。それでも「引き分けでも決められたのは、今までの自分たちの力があつたからこそ」。試合後にはスタンドから声援を送っていた仲間たちに迎えられ、改めて 1 部昇格への喜びを見せた。

TODAYS MATCH

国士舘大学 VS 拓殖大学

11 月 11 日 (土) 14:00
立正大 G

1 野津	国士舘
20 山岸	3 住吉 4 花房 2 飯野
10 平野	13 諸岡
9 本間	8 山口 14 大石 7 荒木
20 長尾 10 小島	
8 富田	13 益子
27 青木	6 岩出 29 奥村 2 細田
5 菅谷 4 田代	
拓大	12 谷田部

平野佑一 (国士舘・MF・4 年)

まだ優勝が決まったわけではありません。次こそは勝って優勝を決めたいと思います。

長尾吉家 (拓大・FW・2 年)

リーグの中で 1 番強い相手なので勝利すれば自信になると思います。得点を決めて勝利したいです

出場停止：なし

警告 3 回：平野佑一(国士舘)、諸岡裕人(国士舘)、細田真也(拓大)、富田博斗(拓大)、小島樹(拓大)

布陣は前節のメンバーを参考にした予想です

国士舘大学、1 年での 1 部復帰へ！

～選手昇格コメント～

【平野佑一 (4 年・MF・主将)】

なんとしても 1 年で関東 1 部に昇格するのが最低限の目標だったので、昇格が決まって素直にうれしいです。勝って優勝を決められなかったのが少し心残りですが、引き分けで決められたのも、今までの自分たちの力があつたからこそだと思います。1 部昇格ではなく、1 部で優勝争いするというのが本来の国士舘の姿だと思います。来年もまだいい選手が残っているので、絶対にいいチームに成長して、来年は 1 部優勝を目指してほしいです。

【荒木翔 (4 年・MF)】

どうしても頭の隅では昇格や優勝という言葉がチラついていたので、ここ数試合はいつもどおりの国士舘ではなかったかもしれません。特にこの 2 試合は、引かれた相手に対してどう攻撃を仕掛けるか、ということで苦労しました。この 1 年間に感じたのは、2 部でも簡単な試合はないということ。1 部のときに 2 部のチームと練習試合をして勝っていたから、最初は余裕か思っていました。けれどリーグ戦では、少しでも隙があれば相手に点をとられる。難しい試合ばかりでした。それでも、そういう試合に勝って、1 部昇格が達成できてよかったと思います。

【山口和樹 (4 年・FW)】

1 部昇格を目標にこの 1 年間をがんばってきたので、今日の結果で昇格できたことは本当によかった。けれどやっぱり、今日の試合に勝って、優勝を決めたかったので、悔しい気持ちも多少あります。今日は勝ちきれないといけない試合でした。国士舘は、常に 1 部に昇格したあとのことを意識して練習に取り組むようにしてきました。現状に満足することなく、向上心をもって努力し続けたいと生き残れないと思います。リーグ戦はあと 2

試合あるので、しっかり勝って優勝を決めたいと思います。

【野津幹陽 (4 年・GK)】

優勝できればもっとよかったと思います。昇格できたことは素直にうれしいです。自分は昨年まで 1 リーグでプレーしていて、関東大学リーグに出場したのは今年からです。だから自分にとって、関東リーグ戦の舞台は 2 部しかなかったし、2 部でも技術が高い選手が多い、というのが素直な感想です。自分が 2 部でしかできなかった分、後輩たちには来年 1 部で活躍してほしい。1 部に昇格できて本当によかったです。

【飯野七聖 (3 年・DF)】

本当は前節に (1 部昇格) 決められていたので、今日は勝って昇格と優勝と一緒に決められたかった。それでも最低限の結果は出せてよかったです。今年も自分たちが主導権を握って戦う試合が多く、引いてくる相手にどう戦うか、というのが 1 年をおおしの課題でした。来年は 1 部で相手に主導権を握られる展開も多くなると思うので、国士舘の縦に強いサッカーを生かして戦っていききたいと思っています。

【諸岡裕人 (3 年・MF)】

この 1 年間は自分たちとの戦いでした。チームが 1 部に復帰したとき、どう戦えるかというのは自分たちの意識次第。それができていたかどうかは、来年 1 部でプレーしてみないとわからないのですが……。来年はできるなら 1 部で優勝争いをしたい。自分が 1 年のとき、国士舘は優勝争いをしていて、残り 5 節でやられてしまった。あの悔しさを晴らしたい。来年は自分にとって最後のシーズンなので、目標は高く、今以上の結果を残したい。自分の得点とアシストが、チームの勝点 3 つにつながればいいと思っています。

